

OPT ISO BOX の導入(18)(HP 収載)

—STAGE+再生と CD 再生—

1. 始めに

前報(16)までの結果および fidata HFAS1-S10 の活用(35)と fidata HFAS1-S10 の活用(36)の結果を受けて、前報(17)で総括を行いました。その結果、OPT ISO BOX は配信においても、fidata HFAS1-UBX からの CD 再生においても大きな効果を認めました。これをうけてマスターが同じと思われる STAGE+の配信音源と CD の再生を比較試聴します。

2. OPT ISO BOX の試聴計画

STAGE+の配信と CD の再生経路を改めて整理しておきます。

STAGE+配信再生

ルーター→(OPT ISO BOX・LAN アクキュライザー)→スイッチングハブ→(OPT ISO BOX・LAN アクキュライザー)→PC→(USB アクキュライザー)→Sonica DAC

CD 再生

fidata HFAS1-UBX→(USB アクキュライザー)→fidata HFAS1-S10→(OPT ISO BOX)→Sonica DAC

上記のとおり、それぞれの再生経路には OPT ISO BOX の他に LAN アクキュライザーや USB アクキュライザーが介在しています。また、HFAS1-UBX のトレイには CD アンチスタティックを貼っています。

試聴した CD は下記のとおりであり、対応する STAGE+の配信音源は、検索して見つけ出したものです。

ARCHIV POCA-1139/40

ヘンデル メサイア

マックリーシュ指揮ガブリエルコンソート&プレイヤーズ

ARCHIV POCA-1132

モーツァルト他 オペラアリア集

アンネ・ゾフィー・フォン・オッター

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

ARCHIV UCCA 1089

バッハ アリア集

アンネ・ゾフィー・フォン・オッター

ラース・ウルリク・モルテンセン指揮コンチェルトコペンハーゲン

ドイツグラモフォン POCG-10243/4

バッハ 無伴奏チェロ組曲

ミッシェル・マイスキー

3. OPT ISO BOX の試聴結果

ヘンデルのメサイアの CD は、ソリスト達の明晰な歌唱、合唱の分離と協和と収録環境の残響もしっかり捉えられています。

ヘンデルのメサイアの STAGE+の配信は、楚々としたソプラノ、力強いバスの歌唱、迫力のある合唱など CD との判別がつきにくいくらいです。

オペラアリア集の CD は、オッターのヴィブラートの効いた清楚でありながらダイナミックな歌唱が間接音も含めて豊かな響きで再現されています。

オペラアリア集の STAGE+の配信は、CD とほとんど区別がつかないくらいリアルさですが、ごくわずかに強調感が残ります。

バッハのアリア集の CD は、オッターの抑制の効いた知的な歌唱と切れのよいバロックアンサンブルのコンチェルトコペンハーゲンの演奏です。

バッハのアリア集の STAGE+の配信は、これもほとんど CD と区別がつきません。コンチェルトコペンハーゲンは、演奏会の記憶がよみがえってきました。

バッハの無伴奏チェロ組曲の CD は、マイスキーの自由闊達なボウイングがリアルに再現されています。

バッハの無伴奏チェロ組曲の STAGE+の配信は、CD とほとんど区別がつかないくらいリアルで間接音も十分に捉えられています。

4. まとめ

STAGE+の配信と CD 再生のそれぞれの再生経路には OPT ISO BOX の他に LAN アキュライザーや USB アキュライザーが介在しており、それらの総合的な効果として STAGE+の配信と CD 再生ともにグレードがあがり、区別がつきにくいレベルに達しています。

以上